

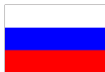
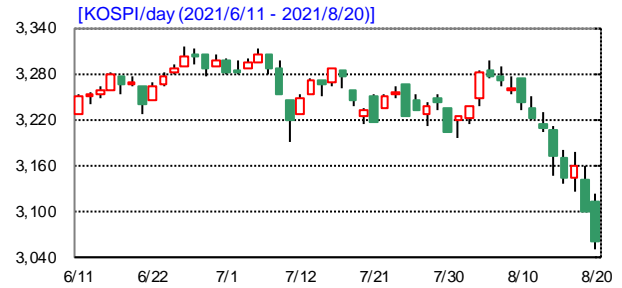


【韓国】 総合指数は週間で3.5%安と続落、新型コロナ再拡大で上値は重い

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で3.5%安と続落。16日は休場で4日間の取引だった。国内での新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大や米FRBによる早期のテーパリング観測などが重荷となり、5日から17日まで8営業日続落した。8日続落は2018年9月28日-10月11日（8日続落）以来2年11カ月ぶり。18日は機関投資家の買いが相場を支えて反発したが、米FRBによる早期のテーパリング観測を受けて19-20日は続落した。週間の下落率としては1月25-29日以来の大きさとなった。国内での新型コロナ新規感染者数が連日で2000人を超えるなど感染拡大が止まらず、防疫措置の延長により景気の冷え込みが警戒される中、今週も上値は重い。経済指標は24日に消費者信頼感指数、26日に政策金利が発表される予定。

▼指数チャート

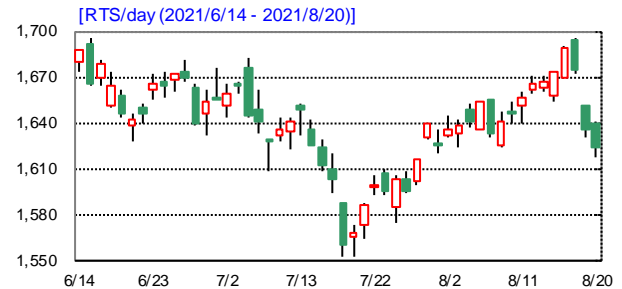


【ロシア】 RTS 指数は2.6%安と4週ぶり反落、今週も原油と海外株が焦点

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.6%安と4週ぶりに反落。米FOMC議事要旨で早期のテーパリングへの懸念が高まったほか、原油安やルーブル安が重しとなり、週後半に大きく下落した。週前半は中国の経済指標の悪化を受けた世界景気減速懸念や原油安の中、ロシア株は前週の上昇トレンドが続いた。ただ、18日はメタル株が下落し、指数は8日ぶりに反落。FOMC議事要旨で早期のテーパリング懸念が高まった19日は下げ幅を拡大。20日は原油安などを受け、3日続落となった。ブレント原油は12日から7日続落し、週間では7.7%安。ルーブルは対米ドルで1.5%下落した。個別では鉄鋼のノボリペツク製鉄所が4.8%、エネルギーのロスネフチが4.4%、資源のノリリスク・ニッケルが3.7%下落した。今週も原油や海外株が焦点。

▼指数チャート



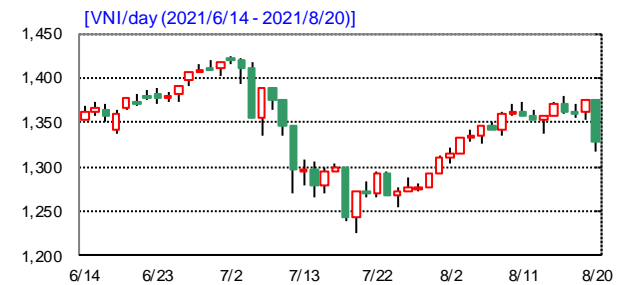
【ベトナム】 ベトナム指数は2.0%安と4週ぶり反落、今週も経済活動停滞が重し

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は2.0%安と4週ぶりに反落。新型コロナの感染急拡大を受けた都市封鎖が嫌気され、週末に急落した。週初は先高観を背景に上昇し、19日まで高値もみ合いが続いた。ただ、20日に感染急拡大を背景に最大都市ホーチミン市で外出禁止令が出され、首都ハノイでも都市封鎖が15日間延長されたことで、指数は大幅安。政府が市民に食料を届けるために警察と軍隊を動員すると発表するなど切迫的な状況が嫌気された。指数は20日に3.3%安と急落し、8月2日以来の安値で引けた。個別では不動産のビンホームズが9.9%安、エネルギーのペトロベトナム・ガスが5.9%安となり、金融のベトナム投資開発銀行が4.8%、バトインバンクが4.7%、テクコムバンクが3.3%下落した。今週も都市封鎖による経済活動停滞が重し。

▼指数チャート

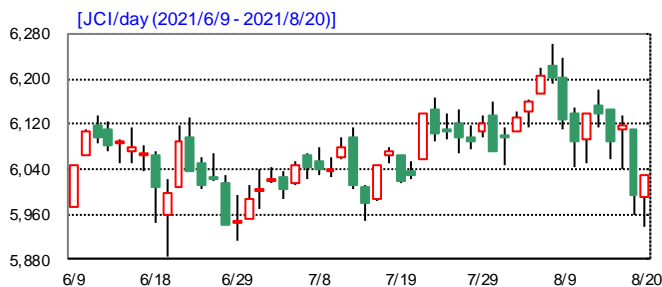


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.8%安、米量の緩和縮小の年内開始観測を嫌気

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で1.8%安と続落。米中の経済動向が指数下落を主導した。週初の16日は、中国の7月の鉱工業生産と小売売上高が市場予想から下振れしたことなどが嫌気され、指数は続落。祝日を挟んだ18日は、7月の貿易黒字額が予想を上回った効果で反発したが、19日は米FOMC議事要旨で、景気回復が進めば年内にも量的緩和策の縮小が始まる可能性が示された影響で、前日比2.1%安と終値で約1カ月ぶりに6000ポイントを割り込んだ。ただ、20日は引け際の買いが奏功し、この水準を回復して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。

▼指数チャート

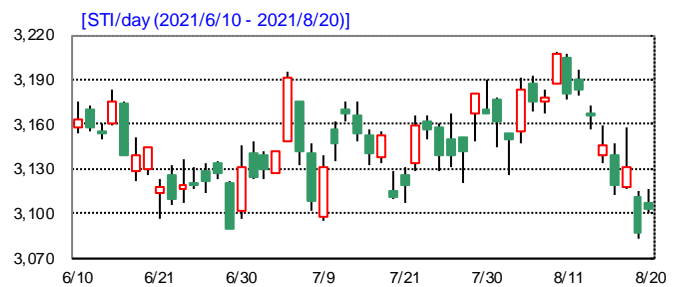


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.0%安、今週は 26 日に 7 月の鉱工業生産発表

ストレーツタイムズ指数は週間で2.0%安と続落。さえない値動きが続いた。週初の16日は、デルタ株の世界的な感染拡大が投資家心理を冷やし、指数は続落。17日は7月の非石油地場輸出が前年同月比12.7%増と市場予想をやや上回ったものの効果は薄く、売り優勢の展開となった。18日はゴム手袋メーカー株などが買われ、4営業日ぶりに反発したが、19日は米国の金融緩和縮小に対する警戒感の高まりが売り材料視されて反落。20日は香港とマカオからの入国規制が大幅に緩和されるとの決定を受け、反発して取引を終えている。今週は23日の7月のCPIに続き、26日には鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート

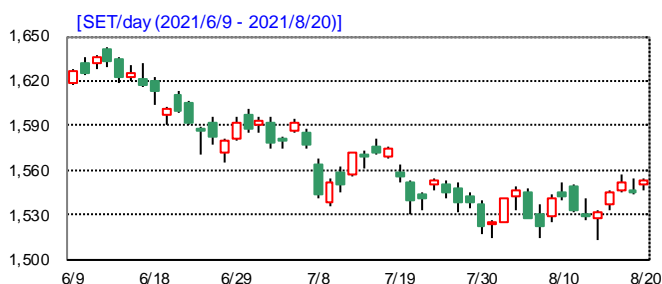


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.6%高、4-6 月の GDP は 6 四半期ぶりにプラス回復

SET指数は週間で1.6%高と続伸。じりじりと上値を広げた。週初の16日は、4-6月期のGDPが前年同期比7.5%増と6四半期ぶりにプラスに転じたことが買い材料視され、指数は3営業日ぶりに反発。17日は政府が米ファイザー製のワクチン1000万回分を年内に追加購入する計画を承認した効果で買われると、18日まで3日続伸した。19日は米国の量的緩和縮小の年内開始観測が嫌気されて反落したが、20日は国内のワクチン接種加速が好感され、終値で約1カ月ぶりの高値を更新している。今週は24日に7月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定で、輸出入額は前月に続き2桁増を維持する見通し。

▼指数チャート

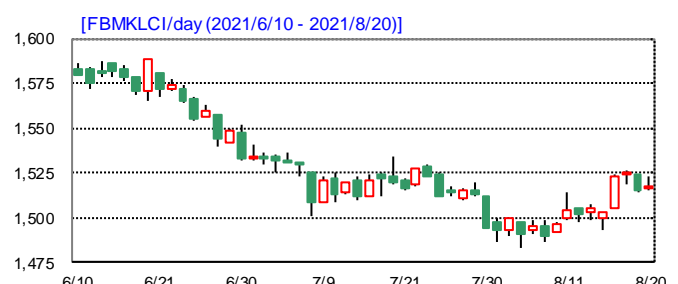


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%高、新首相にイスマイルサブリ前副首相が就任

クアラルンプール総合指数は週間で0.9%高と続伸。おおむね堅調な値動きだった。週初の16日は、ムヒディン首相が連立与党の分裂により辞任する意向を示し、政局に対する先行き不透明感が広がった影響で、指数は小幅反落。一方、17日は金融株を含む幅広い銘柄が買われ、前日比1.4%高と反発した。18日に小幅続伸した後、19日は7月開催の米FOMC議事要旨を受け、前日のNYダウが続落した流れを引き継ぎ反落。20日は反発して引けた。アブドラ国王は同日夕方にイスマイルサブリ前副首相を新首相に任命。21日に第9代首相に就任した。今週は25日に7月のCPI、27日に貿易統計が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。